

気仙沼市教育委員会主催 幼児教育の推進体制構築事業

平成30年度 第2回

幼保小連携・接続研修会



平成30年8月24日(金) 第1回幼保小連携・接続研修会より

日時 : 平成31年2月8日(金) 13時20分 ~ 16時30分

会場 : 気仙沼中央公民館 3階会議室

気仙沼市教育委員会主催

幼児教育推進体制構築事業 平成30年度第2回幼保小連携・接続研修会 次第

期日：平成31年2月8日（金）

（受付開始 12：50）

講師打合せ（13：00）

1 13：20 開会 司会・進行 気仙沼市教育委員会 学校教育課

副参事(指導主事) 小野寺裕史

(1) 開会のあいさつ 気仙沼市教育委員会 教育長 齋藤 益男

(2) 日程、グループごとの話合いについて 同 副参事(指導主事) 小野寺裕史

(3) 講師の紹介 同 学校教育課長 熊谷 利治

2 13：30～14：50 研修講話

◇ 演題 「幼児の成長と小学校への円滑な接続」

◇ 講師 宮城教育大学 幼児教育講座 教授 佐藤 哲也 先生

3 14：50～15：00 質疑・応答

～ 15：00～15：10 休憩 ～

4 15：10～16：15 グループごとの話合い(12小学校区)

◇ ファシリテーター 宮城教育大学 幼児教育講座 教授 佐藤 哲也 先生

(1) 小学校入学時の児童の課題の把握

(2) 幼児期に育てた力を発揮させる入学後の児童と教師のかかわり

(3) これからの2ヶ月でできる幼保小連携の具体策

5 16：15～16：25 総評(指導・講評)

宮城教育大学 幼児教育講座 教授 佐藤 哲也 先生

6 16：25 閉会

○ 閉会のあいさつ 気仙沼市保健福祉部 子ども家庭課 課長 菅原 紀昭

幼児期に育む小学校以降の基礎になる 幼児期の終わりに育ってほしい「10の姿」

CF. 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」 (文科省、平成22年)

⇒ 幼稚園教育要領(平成29年告示)

幼児の成長と小学校への円滑な接続

宮城教育大学 教育学部
 幼児教育講座

教授 佐藤 哲也

1. 健康な心と体
2. 自立心
3. 協同性
4. 道徳性・規範意識の芽生え
5. 社会生活との関わり
6. 思考力の芽生え
7. 自然との関わり・生命尊重
8. 数量・図形、文字等への関心・感覚
9. 言葉による伝え合い
10. 豊かな感性と表現

幼稚園修了時の具体的姿

卒園までの成長を考
 える視点と目安

5歳児のイメージ

幼稚園教員と小学校
 教員が共有する視点

達成目標ではない!

とは言うものの……

幼児小連携に関わる改訂内容

「幼稚園教育要領」(平成29年告示)
 第1章 総則 4 教育課程の編成上の留意事項
 5 小学校教育との接続に当たっては、幼稚園教育が、小学校教育の基礎を培うようとする。
 (1) 幼稚園教育においては、幼稚園教育が、小学校教育の基礎を培うようとする。
 (2) 幼稚園教育においては、幼稚園教育が、小学校教育の基礎を培うようとする。
 交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりに育ってほしい姿」を共有するよう努めるものとする。

「保育所保育指針」(平成29年告示)
 第2章 保育の内容 4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項
 (3) 保育の実施に際しては、保育所保育が、小学校教育の基礎を培うようとする。
 ア 第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりに育ってほしい姿」を踏まえ、指導を行う際には適宜考慮すること。

「幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図るねらい及び内容」
 4 保育の実施に際しては、保育所保育が、小学校教育の基礎を培うようとする。
 (2) 小学校との連携
 ア 保育所において、保育所保育が、小学校教育の基礎を培うようとする。
 イ 保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教員との意見交換や合同の研究の機会などを設け、第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりに育ってほしい姿」を共有するよう努めること。

「できる」「わかる」ではなく、心・情・意欲・態度として捉えることが必要。

達成目標と理解するのは危険。個人差についても十分な配慮が必要。

資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿である。ことを踏まえ、指導を行う際には適宜考慮すること。

保育者や教師への「マインド・コントロール」として機能することが危惧される。

「幼児期の終わりに育ってほしい姿」は、幼稚園教育を通して幼児の成長を幼稚園教育関係者以外にも、分かりやすく伝えることにも資するものであり、各幼稚園での工夫が期待される。

「10の姿」の活用法

幼稚園の教師は、遊びの中で幼児が発達していく姿を、「幼児期の終わりに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められる。

実際の指導では、「幼児期の終わりに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことと十分留意する必要がある。もとより、幼稚園教育は環境を通して行うものであり、とりわけ幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特徴に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意する必要がある。また、「幼児期の終わりに育ってほしい姿」は5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要がある。

さらに、小学校の教師と「幼児期の終わりに育ってほしい姿」を手掛かりに子供の姿を共有するなど、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図ることが大切である。その際、「幼児期の終わりに育ってほしい姿」は幼稚園の教師が適切に関わることで、特に幼稚園生活の中で見られるようになる幼児の姿であることに留意が必要である。幼稚園と小学校では、子供の生活や教育方法が異なっているため、「幼児期の終わりに育ってほしい姿」からイメージ、子供の生活や教育方法に違いが生じていることがあり、教師同士で話し合いながら、子供の姿を共有できるようにすることが大切である。

保護者は(評価)の指標として誤解する危険性が高いので注意が必要

「幼児期の終わりに育ってほしい姿」は、幼稚園教育を通して幼児の成長を幼稚園教育関係者以外にも、分かりやすく伝えることにも資するものであり、各幼稚園での工夫が期待される。

幼保小連携に関わる改訂内容

「小学校学習指導要領」(平成29年告示)

第1章 総則 第2 教育課程の編成

4 学校段階等間の接続

(1) 幼児期の終わりに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を主体的に自己を養育しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立した生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにすること。特に、小・中学校を積極的に回り、幼児期の教育及び中学年以上以降の教育との円滑な接続を図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期の教育を通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、各教科・関連的な指導や単元的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。(7ページ)

第5 学校運営上の留意事項

2 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携
 イ 他の小学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、中学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすること。(11ページ)

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 (7) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすることともに、幼児期の終わりに育ってほしい姿との関連を考慮すること。
 特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした各教科・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。(24ページ)

就学前教育における「達成目標」として捉えてはならない。

集団教育臨床 (one for all, all for one) とし
 て展開することが必要と思われる。

修学前施設と小学校との違い

項目	修学前施設	小学校	違いや不安要素
登下校	保護者と一緒に登降園 送迎バスや保護者の車	1人、友達や異年齢集団で登校 基本的に徒歩	親の不在 登下校時のトラブル
机	みんなの椅子、好きな場所	1人1人の決められた椅子・机	運ぶのが多い 広くて怖い
施設	楽しいような園庭、明るい園舎	整然とした並んだ校舎 階段、運動場の扉、大きな遊具	場所や施設の種類が困難 圧倒される、自分を出づら
人間関係	小規模、同年代との関わりが多い	大規模、他学年との関わりが多い	失敗が多い なかなか動けてもらえない
活動	表現活動、経験活動が中心 細かな指導、個別指導中心	遊学中心 一斉指導中心	周りの流れに合わせられない 時間の流れが速い
過ごし方	遊び中心、隠れ家、切り替えが楽しい	45分の学習中心、決まった流れで進む、切り替えが早い	遊び時間が減っている、遊び内容が乏しい、1人遊びが難しい
遊び	好きな遊び、様々な共有遊具 人数が様々	集団で遊ぶことが多い	自己管理が求められる
行動	先生が近くにいる。 大人の声掛けが多い。	先生がいないときでも自分で考えて動く	時間内に食べ終わる姿勢、苦手な食材との戦い、食器や食器の扱い
屋敷	お弁当、給食など、12時前に食べ始める。園によって内容が違う	給食、牛乳、みんなで行うもの、配膳や選別は当番で行う	位券回収、男女別、カギの存在
トイレ	幼児サイズのトイレ、スリッパに履き替える。仕切りが低い	大きめ、大人サイズ、上履きのまま、仕切りが高い	口が届かない、手が届かない、ハンカチを忘れたらおこられる
水まわり	水飲みはコップ、個人タオルを常備	蛇口から直接飲む、ハンカチが必要	身体に合わない大きさ、重い
バッグ	登園バッグ、中身が軽い	ほぼランドセル、中身が一杯	自己管理が必要
道具	みんなのものが多い	個人の持ち物が多い	字が読める必要がある。
識別	マークやキャラクター、シールなど	記名されている	

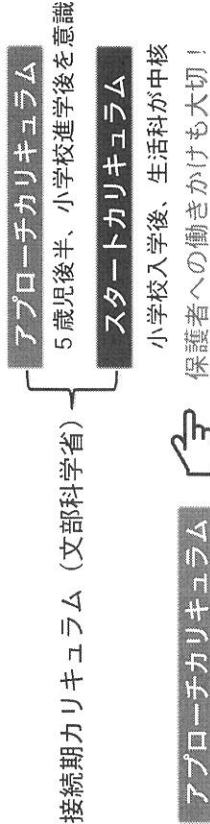
「10の姿」の活用法

『解説』の「小学校との接続」では「達成目標」のごとく書かれている。

小学校低学年は、幼児期の教育を通じて身に付けたことを生かしながら教科等の学びに児童の資質つなぎ、知識・能力を伸ばしていく時期である。幼稚園教育要領等においては、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱から構成される資質・能力を一体的に育むように努めることや、幼児期の教育を通して資質・能力が直まれている幼児の具体的な姿を幼児期の終わりに育ってほしい姿として示している。この幼児期の終わりに育ってほしい姿を手掛かりに幼稚園の教師等と子供の成長を共有することを通じて、幼児期の終わりに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を更に伸ばしていくことができるようになることが重要である。

『小学校学習指導要領解説』(文部科学省、2018) p. 73

幼児期におけるアプローチカリキュラムの概要



○小学校生活への適応を意識した内容

午前中に自己発揮できる生活リズムの形成 徒歩通学への準備
 パーソナル・スペースの確保 給食時間を小学校と合わせる 午睡の廃止

○小学校での学習を予期した内容

集団的な活動の充実 言語活動の充実 文字・数字・社会的環境の工夫

○小学校生活を予期した内容

絵本の活用 小学生との交流 小学校の協力が不可欠
 行事への参加 体験入学 小学校ごっこ

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
国語	いちねんせい なつかしい よし くち	はるの あき	みつけ たよ	こぼの ひみつ あめのひ	ともだちと はなす いっしょいっしょ
算数	なつかしい ついで かす	くま よう	10までのかず	なんぼ んめ	いっしょいっしょ
生活	がっこうだより おきなななめ	おかしな あそび	おもしろい あそび	おもしろい あそび	おもしろい あそび
音楽	みんなであそぼう	おもしろい あそび	おもしろい あそび	おもしろい あそび	おもしろい あそび
図画工作	ずきなもの いろいろ	おもしろい あそび	おもしろい あそび	おもしろい あそび	おもしろい あそび
体育	からだほぐし	おもしろい あそび	おもしろい あそび	おもしろい あそび	おもしろい あそび
道徳	けんしん あいさつ	おもしろい あそび	おもしろい あそび	おもしろい あそび	おもしろい あそび
特別活動	入学式 ようしゅう	おもしろい あそび	おもしろい あそび	おもしろい あそび	おもしろい あそび

学習指導要領で各教科の目標や内容を確認する。

生活科と各教科等との単元の関連した単元配列表を作成する。

縦軸が各教科であり、横軸がスタートカリキュラムの実施期間とする。

生活科を単元の中心として、合科的要素を二重線(=)、関連内容を矢印(→)とする。

各教科等でどのような資質・能力を育成したいのが、意識する。

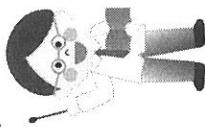
まとめ

◆ 基本的事項の確認

- ① 〈10の姿〉の活用は慎重に（無視することをお勧めします）。
- ② 幼児小、互いの共通点・相違点を探り、共通理解を図る。
- ③ 園・学校や地域の実態、幼児・児童の実態を把握する。
- ④ 社会の要請や保護者の願いを把握する。

◆ 実践を創造する視点

- ① 園・学校のめざす〈子どもの姿〉目標に関する共通理解する。
- ② 幼児と児童を繋ぐ〈媒体〉〈接着剤〉を探る。
- ③ 縦、斜め、横の関係など、様々なレベルの交流を模索する。
- ④ 〈host〉と〈guest〉の関係性・互恵性を考慮する。



文部科学省他編著『築運や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き』
学事出版、2018、17頁

ワークショップ

- ワークショップの目的と進め方の説明（副参事 小野寺）：3分
- 佐藤先生の自己紹介：2分
- ワークショップ

1 小学校入学時にみられる課題についての情報交換→ 『課題の共有』：10分

(1) 課題を付箋に書く。

小学校→自分が所属する小学校の入学時の「1年生」にみられる課題

幼児教育施設→「幼児の現状にみられる入学時に心配な点を付箋に書く。

※ 幼稚園・保育園は赤系の付箋に 小学校は青系の付箋 1項目につき1枚で

(2) 付箋をもとに、学校の課題と年長児の課題で共通することやそれぞれの気づきをグループで整理し共有する。

※ 模造紙に、付箋を貼りながらグループ分けをしながら、内容を整理していく。

※ 模造紙を3分割してつかう。1では、上段に整理したことを書く。

2 幼児期に育てた力を発揮させる入学後の児童と教師のかかわりについて→

『入学後のよりよいかかわりや指導の共有』：25分

(1) 小学校のスタートカリキュラムを（あればアプローチカリキュラムと合わせて）みながら、相互に質問する。

(2) 入学後の児童と教師のかかわりやスタートカリキュラムの留意点について

グループで出し合った課題をもとに、教師がどのようにかかわるか、また、スタートカリキュラムで留意すべきことはどんなことかを共有する。

※ 模造紙の3分割の中段に共有したことを書く。

3 これからの2ヶ月でできること→ 『相互理解による発展的な取組』：20分

(1) 2月～3月までにできること（やったほうがよいこと）を付箋に書き出す。

①いつまでに ②誰が ③何を ④どうするかが分かるように

(2) グループ内で考えを出し合い、できることを共有する。

※ 模造紙の3分割の下段に共有したことを書く。

4 全体での共有：→5分

グループで話し合ったことの紹介

※コーディネーターが発表するグループを選んでおく。

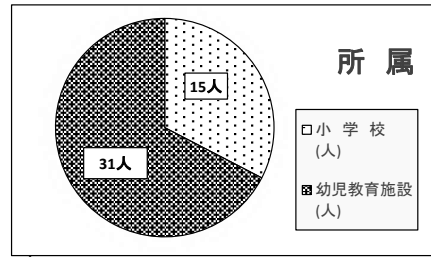
- 講評：佐藤哲也先生からのまとめ：10分

平成30年度「第2回幼保小連携研修会」参加者アンケート 集計

と き:平成31年 2月 8日(金)13:20~
と ころ:気仙沼中央公民館3階会議室

■ あなたの所属について(○で囲んでください)

小学校(人)	15	33%	(行政 1)
幼児教育施設(人)	31	67%	
合計(人)	46	100%	



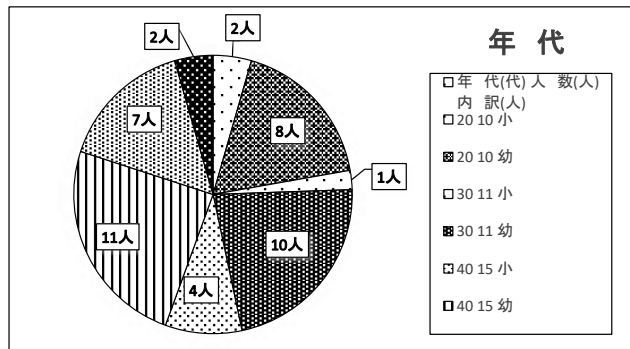
参加者数(人)	回答者数(人)	
45	45	100%

■ あなたの年代と経験年数について(○で囲んでください)

(1)年代

※内訳 小:小学校 幼:幼児教育施設

年 代(代)	20		30		40		50~		合 計	
人 数(人)	10		11		15		9		45	
内 訳(人)	小	幼	小	幼	小	幼	小	幼	小	幼
	2	8	1	10	4	11	7	2	14	31
(%)	22%		24%		33%		20%		100%	



(2)経験年数

年数(年目)	2	3	4	6	7	8	10	12
人 数(人)	4	2	2	1	1	2	3	1

年数(年目)	15	16	17	18	19	20	21	25
人 数(人)	3	1	2	5	1	1	1	2

年数(年目)	27	29	30	31	無答	合計
人 数(人)	2	1	3	2	5	45

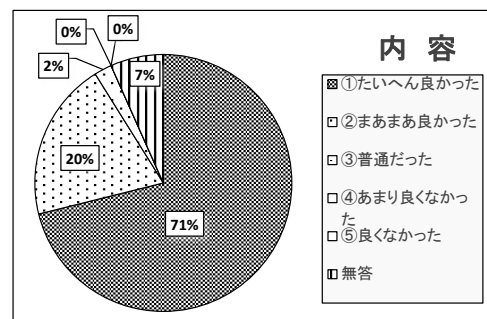
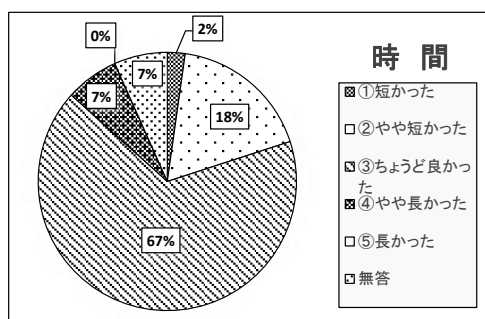
■ 研修会全体について

(1)研修会全体の時間はいかがでしたか？

質問項目	①短かった	②やや短かった	③ちょうど良かった	④やや長かった	⑤長かった	無答	合計
人 数(人)	1	8	30	3	0	3	45
(%)	2%	18%	67%	7%	0%	7%	100%

(2)内容はいかがでしたか？

質問項目	①たいへん良かった	②まあまあ良かった	③普通だった	④あまり良くなかった	⑤良くなかった	無答	合計
人 数(人)	32	9	1	0	0	3	45
(%)	71%	20%	2%	0%	0%	7%	100%



■ 研修講話について(自由記述)

所属：幼児教育施設

《 20代 》

- ・先生の話聞いて、10の姿について改めて学びを深めることが出来ました。(教諭)
- ・10の姿について、個人力だけでなく、周りの人の力を借りて成長できている姿をも考えていくべきではというお話が聞けて、とても納得できました。個別の援助を必要とする子なりの成長を大切に見守っていきたいと思います。(教諭)
- ・引き継ぎの際には、10の姿にあてはめて子どもの姿をとらえるのではなく、幼児教育で大切にしてきたことを踏まえながら、自分の言葉で、一人一人の為の教育が大切だとお話を聞いて改めて感じました。(教諭)
- ・10の姿の捉え方について、これまで考えてきたこと、課題としなければならないことを学ぶことが出来ました。評価にならないよう、アプローチカリキュラムも市のものと一緒に参考にしながら改良していきたいと思います。(教諭)
- ・貴重なお話を伺うことができ、とても勉強になりました。(保育士)
- ・人とのかかわりの中で育ちをたいせつにしたいと感じた。(保育士)
- ・10の姿に捉われることなく子ども一人一人の姿を大切にかかわっていきたい。(保育士)
- ・“10の姿”のあり方について改めて考えてみようと思った。子どもたちが安心して小学校へ行けるよう交流や経験を大切にしていきたい。(保育士)

《 30代 》

- ・これから要録の作成の時期となるので、10の姿の捉え方等講話の内容を良い参考とさせていただきたいです。(教諭)
- ・佐藤哲也先生のお話、「なるほど!!」と思う所、「それでいいのか!」と、疑問だったこと、色々自分の中のモヤッとが減りました。お話が聞けて良かったです。(教諭)
- ・小学校への課題が見え、良かったです。(保育士)
- ・幼保小連携における10の姿の活用法について幼児期の園での具体的な取り組みについて考えさせられました。(保育士)
- ・幼保小の連携の大切さを実感することが出来た。(保育士)
- ・佐藤先生のお話が理解しやすく、今後も研修を受けたいと思いました。10の姿は参考に、本地域を大切に子ども達を保育していきたいです。(保育士)
- ・「10の姿」への捉え方、見つけ方が新しいところで受け止めることが出来た。(保育士)
- ・10の姿について等、疑問に思っていた事を話して頂き、理解できた。(保育士)
- ・年度末のこの時期のこの内容の研修は良かったです。(保育士)

《 40代 》

- ・「10の姿」の捉え方や子ども達の発達、成長を支えていく上で大切なことを教えていただきました。(教諭)
- ・「10の姿」の捉え方について学ぶことが出来た。(教諭)
- ・小学校との接続について、どのような視点で子ども達の姿を見取り、どのようなポイントで保育していったらよいか等も含めて振り返ることが出来ました。また、アプローチカリキュラムの見直しを行っているところだったので、どのように作成していくのかのヒントを沢山いただきましたので、さっそく生かしていきたいです。(教諭)
- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について改めて勉強になりました。(教諭)
- ・日頃からモヤモヤしていた点を哲也先生にご助言頂き、本当に参考になりました。(毎回思いますが、あっという間に過ぎてしまい「もっと詳しく…」と、短く感じるほど、勉強になります。ありがとうございました!!) ご多忙の日々…お体大切に!!(教諭)
- ・今回就学前施設と小学校との違い、不安要素が明記されており、大変参考になりました。これをもとに2・3月の保育や来年度の保育の参考にさせていただきます。(保育士)
- ・10の姿について悩む事もあったので、お話を聞いて大変良かったです。今後の保育に生かしていきたいです。(保育士)
- ・小学校への円滑な接続のために育ってほしい10の姿について、目標達成ではなくあくまで目安として考えるということをお話していただいたことで、10の姿の捉え方について少し考え方が変わりました。今日学んだことを持ち帰り、職員間で共有しながら、どのように活用していくか、保育していくかを皆で考えていきたい。(保育士)

- ・もう少し長く話が聞きたかった。参考にはなった。(保育士)
- ・保育所の職場ではなかなか研修する機会が少ないので、学ぶ良い機会となりました。(保育士)

《 50代 》

- ・10の姿の捉え方等は目からウロコの所や自分の考えていた事と同じところがあり、大変勉強になりました。就学前施設と小学校との違いのページは具体的で参考になりました。(教諭)
- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」について、目安として活用するというを詳しくお話頂き大変勉強になりました。一人一人の子どもの成長を大きくとらえていく視点にしていきたいと思います。(保育士)

所属：小学校

《 20代 》

- ・幼稚園、保育所の指導要領は見たことがなく、不勉強な自分にとって、とても勉強になった。小学校と幼・保のギャップを少しでも減らす手立てを考えたいと思った。(教諭)

《 30代 》

- ・子どもが、就学前施設と小学校での生活の違いや不安要素から、どんなストレスを感じているか理解する事の大切さが分かりました。少しずつ小学校生活に慣れていけるような配慮(寄り添い)が大事だと思いました。(教諭)

《 40代 》

- ・10の姿についての捉え方が勉強になった。その子にあった子ども像を考えたい。(教諭)
- ・幼・小の違いについて、改めて確認すると同時に、気づかないで指導していた点もあった。小さなステップではあるが子どもにとっては大きなステップと捉え、指導に当たっていききたい。(教諭)
- ・あまり小学校生活への理解がないように感じるところがあった。「10の姿」育ててほしい。育てる努力は大切だと思います。(教諭)

《 50代 》

- ・子どもの具体的な姿を中心に、幼保小連携のヒントが分かりやすい御講話でした。(教諭)
- ・教育要領に縛られず、子ども達にとって大切な部分を見落とさずにやっていく事をきいて、少しほっとしました。小学校と幼稚園の差を感じ、スタートカリキュラムの大切さを改めて感じました。(教諭)
- ・現場をたくさんご覧になられている佐藤先生の講話は、具体的で大変良かったです。勉強になりました。(教諭)
- ・幼・保の先生が小学校への円滑な接続の為の取り組みがどのようにしているのか分かりました。(教諭)
- ・就学前施設と小学校の違いを表にまとめて説明してくださったり、幼稚園におけるアプローチカリキュラムの概要を示してくださったりしてとても参考になった。(教諭)
- ・ともすると理解を誤ってしまいそうな「10の姿」のお話等、目からウロコの連続でした。現場の目線と園・学校の実態を踏まえて柔軟に考えることの大切さを教えていただいたように思います。お忙しい中、有意義な機会を設けて頂き、ありがとうございました。(教頭)

■ グループ毎の話合いについて(自由記述)

所属：幼児教育施設

《 20代 》

- ・小学校区での話し合いだったので新入学児の課題や今後の交流活動について共有し、明確化されました。もう少し話し合う時間が長いと良かったです。(教諭)
- ・一年生になって困った事と、一年生になるにあたって困るかもしれないことがほとんど同じになった事で、残り2ヶ月で取り組める具体策についてじっくり話し合うことが出来ました。(教諭)
- ・私たちが大切にすることが、見落としていた子供たちのつまずきを小学校の先生方と話をすることで明確になりました。その中で、幼稚園としてできることの展望も見えた気がします。園に帰り、じっくりと良く考え、援助していきたいと思います。(教諭)

- ・一年生の課題, 年長児の心配なことを共有していきながら, さらにスムーズな接続が行えるよう話し合う事が出来ました。園に持ち帰り, 実施出来るようにしていきたいと思います。(教諭)
- ・対話する中での気づきがあり, 良い機会となりました。(保育士)
- ・小学校側の意見, 課題が聞けたことが良かった。就学までの2ヶ月で, 出来ることは取り入れていきたい。(保育士)
- ・情報交換が出来て良かった。残りの1ヶ月でできることが確認できた。(保育士)
- ・小学校の先生の話聞いて, 私自身参考になった。スタートカリキュラムを見て, とても勉強になった。(保育士)

《 30代 》

- ・互いの課題を共有し, 情報交換できて良かったです。引き継ぎ時期でもあるので, 良い機会となりました。(教諭)
- ・大変実りある内容となりました。少人数でしたので, 話しやすかったです。(教諭)
- ・実際に困っている事, これからやるべき事を確認することができて良かったです。(保育士)
- ・小学校の先生と細かい部分まで, 今まで見えなかった部分を共通認識することが出来, とても有意義な時間となりました。(保育士)
- ・具体的な問題を知ることが出来たので, 活かしていきたい。(保育士)
- ・顔を合わせて話し合いの時間を持つことの大切さを感じました。(保育士)
- ・小学校の先生と沢山の課題の中で, 話をする事が出来て良かった。(保育士)
- ・学区ごとの話し合いや情報交換が出来て良かった。(保育士)
- ・貴重な情報交換が出来ました。ありがとうございました。(保育士)
- ・グループでの話し合いは, 分からなかったこと, 聞きたかったことなど聞く機会となり, 大変ありがたいです。話も盛り上がり, 時間が足りないと思う程でした。(保育士)

《 40代 》

- ・お互い(幼・保と小学校)の生活の仕方や子ども達がギャップに感じていること等を話し合うことが出来, 新たな課題にも気づき, 今後に生かしたいと思います。(教諭)
- ・小学校, 保育所の様子や今後の連携についてゆっくりと話し合うことが出来, とても為になった。(教諭)
- ・哲也先生のお話にもありましたが, 対話をしながら進められたことで, 得たことがありました。残り1ヶ月あまりですので, 園生活に生かしていけることを考え, 取り組んでいきたいと思います。(教諭)
- ・課題や今後の幼保小連携について話し合いが出来て, 来年度に向けられたことが良かったです。(教諭)
- ・日頃の連携を更に強化することが出来ました。(教諭)
- ・学校側の思いを聞くことが出来た事, 他の園の話聞くことが出来, 勉強になりました。(保育士)
- ・時間が足りないくらい, グループでの話し合いは充実しました。他園, 小学校との関わり方等, 知らない世界が広がって, 退所する前に出来ることを, 努力していきたいです。(保育士)
- ・活発な話し合いができて良かった。就学までにどのような事に重点を置いて保育していかなければいけないか, 地域性を見据えて小学校と連携を図っていかなければいけないかを考えていきたい。(保育士)
- ・色々な話が聞けて良かった。少し時間が足りなかった。こういう機会を増やして欲しい。(保育士)
- ・入学直後の授業や生活の様子を具体的に教えていただいたので有意義でした。(保育士)
- ・小グループでの話し合い(学校区)でしたので, 充実した時間を過ごすことが出来ました。(保育士)

《 50代 》

- ・今までわからなかったことが, 今回知ることが出来, とても有意義な時間でした。小学校との連携を更に深めたいと思います。(教諭)
- ・こちらの思いも伝えることが出来, とても有意義な機会となりました。ありがとうございました。(保育士)

所属：小学校

《 20代 》

- ・日頃お話しする機会のない, 幼稚園, 保育園の先生と意見交換することが出来, 良かったです。今後の取り組みに生かしていきたいと思います。(養護教諭)
- ・具体的な場面を思い浮かべながら話すことが出来, 有意義だった。話し合いの時間がもっと欲しいと思った。(教諭)

《 30代 》

- ・幼稚園と小学校とで感じている課題が共通していることが分かりました。課題解決に向けて、幼稚園と協力して取り組んでいきたいと思います。(教諭)

《 40代 》

- ・意外に、幼稚園は年長で子ども扱いしないことに驚いた。(教諭)
- ・毎回、小学校区で話し合えるので、課題や成果を共有できている。この話し合いは連携の活動に繋げていきたい。(教諭)
- ・お互いの教育で大事にしていることを理解する事が出来ていた。ただ、話し合いのテーマがあいまいな気がして、何について話して良いか分からないところがあった。(教諭)
- ・地区毎の話し合いだったので、詳しく話し合いが出来たので、有意義な話し合いだったと思いました。(講師)

《 50代 》

- ・話し合いの時間を十分にとって頂き、幼保小接続について、多くの情報交換ができ、有意義でした。今日の話し合いをスタートカリキュラム改善に生かしていきます。(教諭)
- ・幼保小で連携事業の打ち合わせは忙しい中行うのですが、本日は、じっくりと話し合うことが出来ました。(教諭)
- ・お互いの考え、思いを生で意見交換できて、大変有意義でした。他校のスタートカリキュラム、アプローチカリキュラムも見られて良かったです。(教諭)
- ・付箋に書き込んだことは少しでしたが、保育園の先生とお話できたのは貴重な事でした。(教諭)
- ・お互いに意見交換ができて良かったです。細やかな所まで伝え合い、確認し合うことが出来ました。(教諭)
- ・毎回、特別支援中学校区コーディネーターのメンバーと大体同じメンバーで話し合っているの、十分情報交換はできていると思う。同じ規模の他学区の先生と一緒に話し合うが様々な情報を得ることが出来ると思う。(教諭)
- ・顔を合わせて、具体的な情報を沢山共有することが出来ました。研修を通して学んだことと併せて、連携の無理のない充実策を見つけることが出来ました。(教頭)

■ その他ご意見やご要望等がありましたらご記入ください。

所属：幼児教育施設

《 20代 》

- ・貴重な時間をありがとうございました。今後も、哲也先生のお話を聞く機会があればすごうれしいです。(教諭)
- ・ありがとうございました。(教諭)

《 30代 》

- ・来年度も幼保小のつながりが持てる研修会を続けていきたいです。(教諭)
- ・次年度も同様の研修の場があると良いと思います。(保育士)

《 40代 》

- ・定期的に哲也先生の御講話をきく機会を作って頂きたいです。(教諭)
- ・今日はありがとうございました。(保育士)
- ・来年度も引き続き研修する機会を作っていただければ願います。(保育士)

所属：小学校

《 30代 》

- ・入学2ヶ月前の時期に、大変有意義な研修に参加させて頂きました。本日はありがとうございました。(教諭)

《 40代 》

- ・継続が望ましいと思います。 (教諭)

《 50代 》

- ・とても有意義な研修会でした。ありがとうございました。 (教諭)
- ・子どもの背景にある家庭の事について、最後に佐藤先生に言われて、ハッとしました。様々な家庭があることも心にとめて、子ども達と関わっていきたいです。 (教諭)
- ・ありがとうございます。続くことを願います。 (教諭)
- ・(1)～(3)の課題ごとに1つか2つの地区からの発表があり、分かりやすかったです。津谷小の発表が良かったです。ありがとうございました。 (教諭)
- ・指導講評で、佐藤先生が取り上げられた「忘れ物」の話に納得しました。本校でも忘れても大丈夫な仕組みで対応しています。 (教頭)